

山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより 第74号（通巻第141号）

2008年11月26日発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

※ このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、変更しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

■ 第3回教育相談協議会開催の予定

12月2日（火）16:30より教育相談室にて第3回教育相談協議会が開催予定となっております。出席予定者は、附属4校園の教育相談担当教諭、鳥海先生・酒井先生・鶴田先生・谷口の8名です。附属4校園および山梨大学の教育相談の現状と連携のありかたについて協議の予定です。

■ 第3回期間採用者等研修のご案内

来週の土曜日、「第3回期間採用者等研修」が、下記の日程により開催されます。教員を希望している学部生、卒業生など研修を受けたい方はどなたでも参加でき、受講料は無料です。関係者に広くご紹介ください。

【申し込み方法】

FAX: 055-220-8790、TEL: 055-220-8325、Web: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>、
メール: jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jpのいずれかで。

日 時: 平成20年12月6日（土） 10:10~15:30（一部17:30）

集合場所: 山梨大学 教育人間科学部 J号館5階 A会議室

プログラム: 研 修 1（講 演）

「教師力の向上を目指すために」

永井 達彦氏（元笛吹市立石和中学校校長）

研 修 2（校種別研修）

「児童・生徒理解と学級・ホームルームづくりの実践」

小学校教育 : 太田 充氏（甲斐市立双葉東小学校教頭）

中学校教育 : 猪股真弥氏（義務教育課指導主事）

高等学校教育 : 西室直哉氏（甲府東高等学校教諭）

特別支援教育 : 寺西 修氏（甲府支援学校教諭）

特別研修（希望者のみ）

「教育現場の今日的課題」 永田 徹氏（本学キャリアアドバイザー）

■ 第3回教育臨床研究会のご報告

10月24日（金）10時半より、第3回教育臨床研究会が開催されました。山梨県立巨摩高等学校の野口茂文教諭を講師にお招きし、「高等学校における特別支援教育」についてお話しいただきました。参加者は保護者・学生・教員の計10名でした。特別支援教育も義務教育段階の取り組み実践は蓄積されつつありますが、まだ実施の少ない高等学校における特別支援教育の実践紹介をうけ、保護者の方（特に中学生のお子さんをお持ちの方）からも進学にあたっての書類の書き方など具体的な質問が積極的に出され、貴重な意見交換の場となりました。

■ 平成20年度日本大学協会全国教育実習研究部門会議及び研究集会のご報告

三重大学におきまして、10月24日（金）に教育実習部門の総会・研究協議会が、翌25日（土）に研究集会が開催されました。研究協議会では、「教職実践ポートフォリオ」（岡山大学）、「へき地複式実習5年間の成果と展望」（和歌山大学）など計6つの提案がなされ、協議がなされました。これらのご提案の中で、和歌山大学から、「へき地で主体的に教育実習を体験した学生の教員採用率が高い」という話を興味深く伺うことができました。本学でも、教育ボランティアを積極的に行っている学生の中に、教員採用試験に合格している学生が何名か見受けられます。やはり課題意識をもった学生の主体的な学びが、結果として教員採用と結びついていくのではないかという感想をもちました。総合協議では、教育実習中の不適応な学生の対応についてどのようにしたらよいのかなど、協議がなされました。また、研究集会では、「附属学校及び地域（教育委員会・学校）との連携・協働の取組」分科会に参加いたしました。「教育実践力の育成と学校地域の活性化」（三重大学）「地域の小学校との連携にみる教育大学の役割について」（福岡大学）など計7つのご提案がありました。中には、大学教員が小学校で出前授業を行い、成果を上げているなどのご報告がありました。

■ 教育相談の状況について（山梨大学地域社会連携融合プロジェクト）

今年度の相談件数は、今年度から開始された「地域連携 子どもと親と教師のための教育相談事業」と附属学校園に対する相談を含めて229件（9月末現在）です。このうち、県との連携関係の相談件数は55件で、学校訪問を行ったケースもあります。相談件数は、昨年度に比べ7割増となっており、年度はじめに、山梨県教育委員会から県内の小中学校の保護者に配布される「地域連携子どもと親と教師のための教育相談」のちらしにより、相談事業の存在が周知徹底され、定着しつつあると考えられます。保護者からの相談が最も多く、今後さらなる増加が予想されます。今後とも相談スタッフの先生方のご協力を何卒よろしくお願いいたします。

■ 「教師のための教育相談」の報告書に関するお願い

教育相談を実施した方は報告書の提出をお願いします。報告書の簡易版および従来の報告用紙は教育人間科学部総務グループ入り口を入れて左手のレターケース（総務グループ提出箱）の教育相談専用ボックス（青いラベルです）にあります。また、谷口までご請求くだされば、メールでファイルをお送りいたします。提出は随時受け付けておりますので、谷口のレターボックス（教育実践総合センター）にお入れくださるか、メールにてお送り下さい。

■ 「教師相談室」及び相談室の備品をどうぞご利用ください。

教育相談に教育相談室（Y-304）をどうぞご利用ください。鍵は教育実践総合センター事務室（J号館4F）にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。（なお、火・木・金曜日の午後は教育実践総合センター及び附属特別支援学校相談支援室が優先的に使います。）教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品を貸し出します。借りる際には使用ノートにご記入をお願いします。

■ 「教師相談室」及び相談ユースネット要項等改定検討委員会のご報告

平成20年ハイユースネット要項等改訂委員会の第1回と第2回がそれぞれ9月9日と10月29日に山梨県総合教育センターで開催され、委員の山下（和）が出席しました。この委員会は、県内の小中高等に配備されているネットワーク（ハイユースネット）に関する管理運用と利用についての規程を整備することを目的としたものです。その整備にあたっては、利用の便を図りつつ情報セキュリティ上の危険性を排除ということが求められており、大学でのネットワーク運用の経験者という立場から検討に加わりました。

これまでのセンターだよりの一部は <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/pub/nl/>で見ることができます。